

Y25a 日本における公開天文台と天文教育との連携

李銀知, 小倉康, 大朝由美子 (埼玉大学)

天文分野は地学の中でも生徒たちが難しさを感じる分野である。そのため、学習の動機付けとなるように、天文学への興味・関心を高めることが重要である。公開天文台は天文分野への興味を高めるための天体観測実習や体験活動が経験できる施設の一つである。

韓国で本格的に公開天文台が設置されたのは、地方テーマ科学館建立支援事業の影響で地方自治団体が設立・運営する公開天文台の建設が活発であった2000年代以後である。しかし、2014年から地方テーマ科学館建立支援事業による追加の支援が無くなったため、今後韓国公開天文台の量的増加は期待できない。したがって、公開天文台をよりうまく活用できる方法がのぞまれる。一方、日本公開天文台協会の『公開天文台白書2006』(2007)によると、日本ではすでに1980年代に公開天文台の建設ラッシュがあり、2006年当時約300~400箇所の公開天文台が全国各地に設置されている。公開天文台の適切な活用方向を探る一つの方法として、韓国より公開天文台の数が多く、天文教育分野の活用経験が豊富な日本の先例を分析することが考えられる。

そこで、日本の公開天文台の状況、特に学校現場の天文教育と関係のあるプログラムに焦点をあて調査することを目的とし、日本公開天文台協会第10回全国大会に参加した施設を対象として、公開天文台の活動内容に関するアンケートを実施した。また、天文学者、理科教育学者の意見を参考にして日本でも教育活動が盛んな公開天文台(群馬県立ぐんま天文台、兵庫県立大学西はりま天文台)を選択し、小・中学生向け及び高校生向けの教育、教員研修、教員養成などとの関係のあるプログラムの運営状況や内容について資料調査、関係者インタビューなどを実施した。本講演ではその調査結果について報告する。